

島精機製作所視察と高野山、熊野三山・那智の滝、熱田ひつまぶしの旅

「全自動手袋編み機」の開発を創業の原点とする島精機製作所は「Ever Onward 一限りなき前進」の経営理念のもと、常に新しい技術の開発と未知なる領域への挑戦を続け、創業から60年を経た現在、手袋編み機をはじめ、コンピュータ横編機、ホールガーメント横編機、アパレルデザインシステムのトップメーカーとして、世界的な高い評価を得ています。



株式会社 島精機製作所 本社

和歌山市の中心にある虎伏山の頂上にそびえ、白亜の三層からなる大天守閣を持つ和歌山城。8代将軍吉宗、14代将軍家茂を輩出した紀州藩紀州徳川家の居城で、現在の天守閣は1958年（昭和33年）に再建されました。天守閣からの景色は見晴らしが良く、和歌山市街や周辺の山々、紀伊水道まで360度ぐると見渡すことができます。

和歌山市のシンボル！白亜の天守閣



ダイワロイネットホテル和歌山

3月4日(水)宿泊

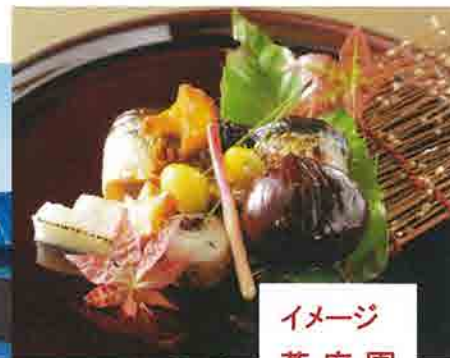
心からくつろげる、上質なひとときを。在をより豊かにするホテルに。和歌山市内を一望できる、20階建ての高層タワーホテル。



葵庭園

紀州徳川家ゆかりの名庭園

四百年の歴史と伝統を纏う老舗料亭が、四百年の時を超え、生まれ変わりました。厳選された四季折々の食材を活かし時代を紡ぐ美食の一皿をお楽しみください。



イメージ
葵庭園
P1



高野山 金剛峯寺 金堂

高野山は、平安時代のはじめに弘法大師によって、開かれた日本仏教の聖地です。

「金剛峯寺」という名称は、お大師さまが『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇經(こんごうぶろうかくいっさいゆがゆぎきょう)』というお経より名付けられたと伝えられています。

東西 60m、南北約 70m の主殿(本坊)をはじめとした様々な建物を備え境内総坪数 48,295 坪の広大さと優雅さを有しています。



金剛峯寺金堂

熊野本宮大社



熊野連山の三千六百峰を形成する、果無山脈。その山間を縫うが如く流れ、太平洋へと続く熊野川は、まさに熊野の大動脈です。この熊野川の中枢に、古代より熊野巫大神の鎮座されるお宮が、熊野本宮大社です。熊野本宮大社は過去くまのにいますじんじゃ「熊野坐神社」と号し、熊野の神と言えは本宮のことを表していたものと推測されます。

亀の井ホテル那智勝浦 3月5日(木)宿泊

お部屋は熊野灘が目の前に広がるオーシャンビュー。

木のぬくもりと畳の優しさを感じながら、温泉三昧の露天風呂付客室やアートウォールが特徴的な洋室など、旅の目的やスタイルに合わせてお選びいただけます。



熊野灘で獲れた新鮮な海の幸。イメージ
豊穣な熊野の大地に育まれた地の恵み。
熊野ならではの旬の素材を厳選し、調理人の
技が素材本来の味を引き出す贅沢な会席料理
理 開創千六百年

青岸渡寺(三重塔)



那智山は、遠く 1600 年の昔、仁徳帝の御代(313~399)にインドの僧、裸形上人によって開基され上人が熊野浦に漂着して那智の滝にたどり着き、きびしい修行を重ねるうちに、観世音を感じしたと伝えられています。

それからおよそ 200 年を経た推古天皇(593~628)の世に、堂宇が建立され、大和から生仏上人が入山して如意輪観世音を安置されました。

島精機製作所視察と高野山、熊野三山・那智の滝、熱田ひつまぶしの旅

熊野速玉大社

ようこそ 人生甦りの熊野速玉大社へ！

熊野信仰の起こり

私達の祖先は、一体いつの頃から「神」の存在を感じたのでしょうか？古代の人々にとって、生命の保証のない大自然の中で生きていくことは、想像を絶するほど過酷であったと思われます。自然は、言葉で言い尽くせない驚異、感動、苦しみ、そして恵みを私達に与えます。

人間の生活を、また自らをも破壊してゆく自然の猛威、一方で暖かい光と豊饒の恵みをもたらす生命の泉としての存在・・・大自然の脅威と恵みは、古代人の心に「恐れ」と、気高く聖なるものへの「畏れ」を生み出していきます。

その中で私達の祖先は、自然をも超越した完全無欠の神を望まず、大自然の中にこそ存在し、災害も恵みも合わせ与える厳しくも温かい神を望みました。

御神木「榊」なぎ



あつた蓬萊軒(名物ひつまぶし)



ひつまぶしのお召し上がり方

1. 一膳目はそのまま鰻の味を
 2. 二膳目は薬味を加えて
 3. 三膳目はお茶漬けに、最後はお好みの召し上がり方で
- ひつまぶしは、吸い物・香の物・薬味・出汁付き。

榊の木をくり抜いたおひつに、炊き立ての温かなご飯と細かく刻んだ鰻を敷き詰め、

一人前ずつご提供しております。

タレのおかわりも可能ですので、ご希望の方は気軽にお声がけください。

熱田神宮

熱田神宮の創祀は、三種の神器の一つ草薙神剣(くさなぎのみつるぎ)の鎮座に始まります。第12代景行天皇の御代に、日本武尊(やまとたけるのみこと)は神剣を今の名古屋市緑区大高町火上山に留め置かれたまま三重県亀山市能褒野(のぼの)でなくなられました。尊のお妃である宮簀媛命(みやすひめのみこと)は、神剣をここ熱田の地にお祀りになりました。以来、伊勢の神宮につぐ格別に尊いお社として篤い崇敬をあつめ、延喜式名神大社・勅祭社(※)に列せられ国家鎮護のお社として特別のお取り扱いを受ける一方、「熱田さま」「宮」と呼ばれ親しまれてきました。約6万坪の境内には、樹齢1,000年を超える大楠が緑陰を宿し、宝物館には信仰の歴史を物語るものとして、皇室を初め全国の崇敬者から寄せられた6,000余点もの奉納品が収蔵展示されています。また、剣の宝庫 草薙館では、当神宮に奉納された名刀約450口を順次展示しています。

境内外には本宮・別宮外43社が祀られ、主な祭典・神事だけでも年間70余度、昔ながらの尊い手振りのまま今日に伝えられています。



本宮

P3